



武陽食品株式会社

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-4-1 新国際ビル
Tel. 03-3211-4831 Fax. 03-3211-6004

『武陽月報』は、武陽食品株式会社と株式会社J-オイルミルズが、酪農家・肉牛農家の皆様に役立つ情報をお届けするニュースレターです。

2月生乳生産前年比 2.5%増 農水省

農林水産省は、2022年2月の全国の生乳生産量は59万7,454トン（前年同月比2.5%増）と前年をわずかに上回ったことを発表した。

地域別生乳生産量は、北海道が33万5,807トン（前年同月比3.9%増）、都府県が26万1,647トン（同0.7%増）となり、いずれも前年同月を上回った。

生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは30万6,594トン（前年同月比0.4%減）と9カ月連続で前年同月を下回った。また、飲用牛乳等の生産量を見ると、1割を占める学校給食用については、3万867トン（同6.9%減）とかなりの程度下回った。新型コロナウイルスの変異株であるオミクロン株が全国で猛威を振るい、若年層の感染率が増加したことで学級閉鎖などが相次いだことが要因とみられている。

乳製品向けは、チーズ向けが3万5,475トン（前年同月比2.0%減）と9カ月ぶりに前年同月を下回ったものの、脱脂粉乳・バター等向けが15万7,522トン（同10.3%増）、クリーム向けが5万3,376トン（同1.2%増）とそれぞれ前年同月を上回ったことで、乳製品全体でも28万6,846トン（同5.6%増）と前年同月を上回った。

2021年度販売乳量 2.4%増 中酪

中央酪農会議は2021年度の用途別販売実績について、全国の生乳販売量（生乳生産に連動）は前年比2.4%増の723万4,672トンとなり、3年連続で増加したと発表した。

地域別には、北海道が、酪農家の規模拡大などを背景に前年比3.2%増の413万5,863トンと、前年に引き続き400万トンの大台に乗ったほか、都府県も同1.2%増の309万8,810トンと伸びた。

全国の販売乳量を用途別にみると、飲用牛乳等向けは前年比1.9%減の319万74トンとなり、夏場の天候不順に加え、コロナ禍による業務用需要の低迷、肉食需要の落ち着きなどが影響したとしている。また、需給調整の役割を担う脱脂粉乳・バター等向けは同9.9%増の185万6,972トンと拡大した。

乳製品相場過去最高値を更新 EU

欧州委員会は、4月の乳製品相場（100キロ当たり）について、バターが前年比70.3%高の683ユーロ（約9万3,300円：1ユーロ＝136.6円）、脱脂粉乳が同68.0%高の415ユーロ（約5万6,700円）、チェダーチーズが同23.7%高の381ユーロ（約5万1,900円）になったと発表した。特にバターと脱脂粉乳は、欧州委員会が統計を公表している2001年以降の最高値を更新した。

相場が高騰している要因としては、生乳生産コストの上昇が大きいとしており、飼料費が上昇傾向にあったことに加え、ロシアによるウクライナ侵攻後、飼料穀物や肥料、エネルギーなどの価格が高騰し、酪農家のコスト増加に拍車がかかったためとしている。

飼料のご用命は

武陽食品株式会社

飼料部宮城営業所 飼料部福島営業所

東北第一営業所山形出張所 担当

乳価が過去最高水準で推移 米国

米国農務省は、2022年2月の全米平均総合乳価は生乳100ポンド当たり24.7米ドル（1キログラム当たり67.19円：1米ドル=123.39円）と国内外からの堅調な需要を背景に21年夏から上昇傾向で推移していることを発表した。

飼料コストが上昇する中で、乳価の上昇率がそれを上回っていることから、同月の酪農マージンは、前年同月比83.9%増の同10.98米ドル（同29.87円）となった。22年の乳価について現地では、米国内の乳牛飼養頭数の減少、国内外の生乳生産量の減少および国内外の乳製品需要の増加により、高値で推移すると予測されている。

2月牛肉生産前年同月比1.0%増 農水省

農林水産省は、2022年2月の牛肉生産量は、2万4,696トン（前年同月比1.0%増）と前年同月をわずかに上回ったことを発表した。品種別には、和牛は1万1,177トン（同0.7%増）とわずかに、交雑種は6,435トン（同4.3%増）とやや、いずれ

も前年同月を上回った一方、乳用種は6,675トン（同1.6%減）と前年同月をわずかに下回った。

過去5カ年の2月の平均生産量との比較では、前年同月比0.4%増とわずかに上回る結果となった。

2月牛肉輸入年同月比8.3%減 農水省

農林水産省は、2022年2月の牛肉輸入量は、3万7,770トン（前年同月1.3%増）とわずかに上回ったことを発表した。冷蔵品は、米国産および豪州産の輸入量が現地価格の高止まりなどにより減少したことから、1万6,404トン（同8.3%減）と前年同月をかなりの程度下回った。冷凍品は、冷蔵品と同様に米国産の輸入量が減少したものの、他国産の輸入量が増加したことから、2万1,343トン（同10.0%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

過去5カ年の2月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は前年同月比11.7%減とかなり大きく下回った一方、冷凍品は同2.6%増とわずかに上回る結果となった。

J-オイルミルズ ファイバーフィード 乳用牛・肉用牛飼育用配合飼料

ファイバーフィードは、大豆皮を主原料とし、ペレット化した混合飼料です。大豆皮はNDF含量が高いにもかかわらず、リグニン含量が低いため消化性が高く、高エネルギーです。高繊維、高エネルギーの原料である大豆皮をふんだんに使用した、ファイバーフィードはJ-オイルミルズにしかない、独自の飼料です。

夏場の飼料給与には、粗飼料の不足を補い、第一胃内の発酵の安定させる、ファイバーフィードをお勧めします。



成分	原物中	乾物中
粗たん白質	14.0%前後	16.0%前後
粗脂肪	3.0%前後	3.4%前後
粗繊維	23.0%前後	26.4%前後
粗灰分	7.0%前後	8.0%前後
カルシウム	0.40%前後	0.40%前後
りん	0.15%前後	0.17%前後
TDN	65.0%前後	74.7%前後